

キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz)

【選定理由】

県内各所に棲んでいるが、どの地域においても個体数は少なく減少傾向にある。古木や崖地の表面などに住居を作るので、工事などによる環境破壊の影響を受けやすい。



岡崎市茅原沢, 2007年9月9日, 緒方清人 撮影

【形態】

体長雌 10~11mm、雄 6~8mm。背面の中窩は横向きで前曲する。第3脚脛節背面に窪みがある。

【分布の概要】

低地から海拔 720m まで広く分布する (須賀, 1989)。各生息地とも個体数は少ない。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する (新海ほか, 2018)。

【生息地の環境／生態的特性】

樹皮上、石垣、崖地などの表面に袋状の住居を作る。住居の長さは約 3cm で出入口に円形の扉を付ける。扉の近くにきた多足類や昆虫類などの獲物を捕らえて、住居内に引きずり込む。住居の表面にはコケ・樹皮・土などを付着させるので見つけにくい。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内広く分布するが、多くは単独で記録される。生息に適した古木や崖地が、伐採や土地開発などで失われている。

【保全上の留意点】

生息地での開発は慎むべきである。

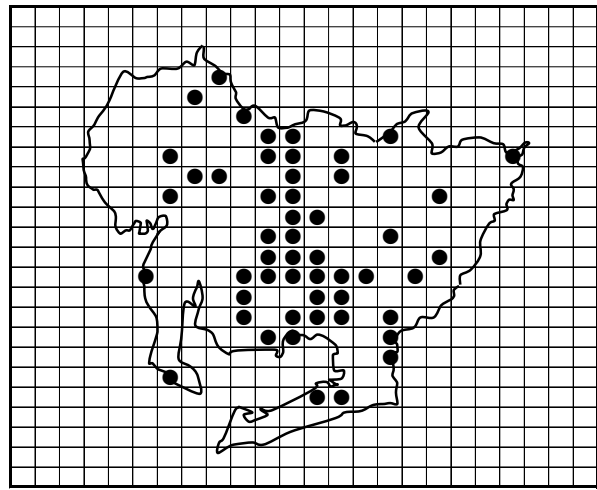
【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛, 22: 10-11. 中部蜘蛛懇談会.  
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.19,163. 偕成社, 東京.  
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.4. 保育社, 大阪.  
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.  
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.91,598. 東海大学出版会, 神奈川.  
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.34,483. 東海大学出版会部, 神奈川.

県内分布図



(緒方清人)